

長野地区社保協（社会保障推進協議会）ニュース



長野地区社保協は、社会保障についての相談窓口です。

社会保障制度の改善をめざして、労働組合、医療、福祉関連の諸団体、

市民団体、女性団体などが共同して運動をすすめる組織です。（活動地域：長野市、上水内郡）

長野市議選 予定候補者

社会保障に関するアンケート

9月17日投開票で、長野市議員選挙が行われます。長野地区社保協は、7月13日付長野市民新聞の報道などをもとに予定候補にアンケートを送付し、回答を求めました。以下9名（回答順・敬称略）から回答をいただきましたので、掲載します。

若林すみよ

山本裕太（無所属）

黒沢清一（日本共産党）

佐藤高志（日本共産党）

阿出川 希（日本共産党）

山崎裕子（信州・生活者ネットワークながの）

滝沢真一（日本共産党）

野々村博美（日本共産党）

竹内 茂（日本共産党）

者への負担軽減対策を行っていくべき。

- ・（阿出川氏）「はい」物価高、給料上がらない、年金が上がらない。何もかもが高い中で社会保険の負担軽減は必要。
- ・（山崎氏）「はい」物価高騰により生活の苦しさが増す中で、自己負担の重さは、更なる受診控えや必要なサービスが使えない事態を招き、これまで以上に健康状態の悪化や生活の質の低下、命の危険につながる。
- ・（滝沢氏）「はい」物価高騰のもとで賃金も年金も見合った額ではない。もっと暮らしを応援すべき。
- ・（野々村氏）「はい」物価の高騰と重い社会保障の自己負担分で国保加入者、年金暮らしの高齢者は悲鳴をあげている。景気は回復しておらず、内需の冷え込みは深刻だ。
- ・（竹内氏）「はい」高齢者の年金は異常な物価高にもかわらず減らされ続けています。介護保険料も上がり続け、いざ利用と考えた時、高額で使えないことまで生じています。国に抜本的な軽減策を求めます。

① 国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険の保険料と自己負担の軽減に賛成しますか →9名全員が「はい」と回答

- ・（若林氏）「はい」高齢者の収入がおちてきている中で、高齢になると体調を崩すかたも多く重要だと思います。
- ・（山本氏）「はい」ただし、これはバランスが重要となります。現在の保険料で暮らせる人、暮らせない人がいます。軽減するか否かのピックアップだけではだめです。社会の根本的な問題があります。
- ・（黒沢氏）「はい」共産党の市政アンケートで国保料と介護保険料が高いという声が大変大きい。
- ・（佐藤氏）「はい」物価高でありとあらゆるものの値段が上昇している今、収入が限られている高齢



② 子ども・障がい者等医療費の無料化（福祉医療給付制度の無料化）に賛成しますか →山本氏が「いいえ」、ほか8名は「はい」

- ・（若林氏）「はい」子どもは社会の宝物であります。また障害を抱えた方は本人もご家族も望んでいることではないので助け合っていかなければならないと思うからです。

- ・（山本氏）「いいえ」医師会、薬剤師会、歯科医師会にしても、無料に伴う給付から、余計な検査を増やすべきではなく、医療のレベル、質を精度の高い治療・投薬が求められます。患者さんの取り巻く環境を良い方へ。これは医療者に対するいいえで、個人負担の点で無料化には賛成します。
- ・（黒沢氏）「はい」レセプト500円のために、受診を控える子、人が少なくない。
- ・（佐藤氏）「はい」お金を理由に子どもが医療を受けられない状況はあってはならない。受給者負担金もなくして完全無料としていくべき。
- ・（阿出川氏）「はい」必要な時にお金の心配なく必要な医療を受けることができるために必要。
- ・（山崎氏）「はい」医療費助成により、子どもや障害のある方すべてが、安心して必要な医療を受けることができるようにすべき。
- ・（滝沢氏）「はい」子どもの医療費の窓口無料化で長野市は県内で最も遅れをとった。率先して行うべき。
- ・（野々村氏）「はい」障害者の医療費はいまだに窓口無料になっていない。早急に実施すべき。子どもの医療費の500円の自己負担分は、負担が大きい。完全無料を求める。
- ・（竹内氏）「はい」長野市もようやく18歳までの医療費無料化が実現しますが、窓口負担や受給者負担金が残されています。とりわけ、子ども・障がい者等の医療費無料化は行政が直ちに行うべき大事なことと考えます。

③ 加齢性難聴者の補聴器購入に長野市独自の補助制度創設に賛成しますか

→若林氏・山本氏「いいえ」、7名は「はい」

- ・（若林氏）「いいえ」補聴器には個別差があり、補聴器とのマッチングが重要で、このマッチングをすることができる人材をまずは育てる必要があると思うからです。
- ・（山本氏）「いいえ」難聴は（家庭）環境によって起こります。一時的に補聴器を付け治したとしても、次のレベルに難聴が進行してしまいます。聞きたくないことから、人間は自分の体を守る機構

として備えています。

- ・（黒沢氏）「はい」難聴の人は、早めに購入して補聴器を対応すれば改善できるので。
- ・（佐藤氏）「はい」耳が聞こえづらくなることで、会話への参加を行う機会の減少になり、認知機能の低下を招きやすくなる。高齢者の健康維持のためにも補聴器の補助は前向きに検討するべき。
- ・（阿出川氏）「はい」耳の聞こえは、高齢者の生活の質を大きく左右するもの。聞こえない事の弊害が大きい。
- ・（山崎氏）「はい」聞こえの低下は、人との関係や生活全般への影響が非常に大きく、近年は認知症のリスクを高めることもわかってきている。補聴器は高額で、購入をためらったり購入できない方が多い。補助制度を創設するべき。
- ・（滝沢氏）「はい」補聴器はあまりに高額、国に対して補助をもとめるとともに、長野市も国待ちにせず率先して補助制度をつくるべき。
- ・（野々村氏）「はい」社会とのコミュニケーションをとれるようにすることは孤独化を防ぎ、認知症予防にも大切。また人権を守ることになる。
- ・（竹内氏）「はい」加齢性難聴は年齢と共に誰もがかけらうる症状ですが技術が進みかなりの改善が図られるようになった。一方で補聴器は高額で補聴器は高額で購入をためらう人が多い。補助制度を導入創設し補聴器装着が広がるようにすべきと考える。

④ 小中学校給食費の無償化に賛成しますか

→9名全員が「はい」と回答

- ・（若林氏）「はい」賛成です。所得により有償無償を検討してもいいと思います。さらに長野の地産地消を意識した給食を子供たちに安心して食べていただきたいと思います。
- ・（山本氏）「はい」この問題はどこでも取り上げられますが、当然無償化はしなければいけません。学校に強制的に来いというのに、親に食費を負担させてどうするのですか？食は教育の一環です。
- ・（黒沢氏）「はい」現状でも、給食費の滞納があり翌年度にもちこしている世帯が少なくない。

- (佐藤氏)「はい」小中学校での支出の固定費で一番大きな割合を占める給食費。若者が子育てしやすい長野市にしていくために、無償化していくべき。最低でも一部割合を市が負担すべき。
- (阿出川氏)「はい」“食育”として教育の一環である。子どもたちが直接、受け取ることができる支援、必要。
- (山崎氏)「はい」学校給食は、子どもたちが安心して健やかに毎日を過ごせるために欠かせない。命と健康を守るために無償化すべき。
- (滝沢氏)「はい」長野市教育委員会自身が、教育の一環と認めているのだから当然無償とすべき。
- (野々村氏)「はい」義務教育は無償とするという憲法通りの教育が大切。子育ての経済的な負担を緩和できる。
- (竹内氏)「はい」私も小学校の頃は家庭が貧しく、学校での昼食がとても楽しみだった。時代が進み、全ての子供たちが豊かに過ごせる時代にと考えていたが、格差が広がり、食事にも事欠く子供すら多いと聞く。栄養バランスの取れた学校給食を義務教育の一環として無償化し、全ての子供たちに与えたい。
- (黒沢氏)「はい」中小規模業者のなかには廃業する人も出る中で、少なくとも延期すべき。
- (佐藤氏)「はい」インボイス制度自体が免税業者に対して消費税を課すことを半ば強制するような非常に不公平な制度。実施延期もそうだが、見直しもしていくよう意見を上げていくべき。
- (阿出川氏)「はい」インボイスに登録していない売上げ1000万円以下の事業者が仕事を受けると、元請けが消費税の経費にならなくなる。下請けか元請けが新たに全国で1兆円の増税になり、廃業になるから。
- (山崎氏)「はい」物価が高騰し、市民生活が非常に厳しい状況にある今、インボイス制度の実施は当面延期し、制度自体を見直すべき。
- (滝沢氏)「はい」延期だけでなく中止すべき。税金は応能負担で。
- (野々村氏)「はい」内需の冷え込みは深刻で景気は決して回復していない。零細・個人事業主にとっては大変な負担増。廃業者が増えてしまう。
- (竹内氏)「はい」消費税は格差が拡大する最悪の課税方法ですが、インボイス制度は消費税納税者を拡大させる制度で中止すべきと考えます。

⑤ インボイス制度の実施延期に賛成しますか
→若林氏は回答不可、山本氏「いいえ」、
ほか7名は「はい」

- (若林氏) 質問の意図がわかりませんのでお答えできません。
- (山本氏)「いいえ」延期をするだけでは根本的な対策になっておらず、政府がそうすると決めたのなら、官民手を取り合って、対応のための準備を進めなければならないと考えます。マイナンバーにしてもそうですが、やると決まったことは行政のリードのもと従い、それに国民として順応すべきと考えます。当然問題は出ますが、解決策を求めあう必要があると感じます。現状では、知らなかった人、申請できなかった人が損や負担を強いられる状況にあると感じられ、このままではいかず当然、移行の問題も出ていますが、前向きに制度を見守る姿勢が肝心だと考えます。

⑥ 現行の健康保険証を残すことに賛成しますか
→山本氏「いいえ」、ほか8名は「はい」

- (若林氏)「はい」現行の保険証を利用する方もいらっしゃるるので、賛成です。
- (山本氏)「いいえ」もう少し、国民の流れを見たいです。移行時、最初にやるどんなことも、問題は起きます。誰かが進めなければなりません。ただ、力なく欠点ばかりで政権が持ちこたえられない時に、自然消滅するでしょう。民主主義の管理はしてはいけないと考えます。コントロール下にあるものは民主主義とは言えません。中国、ロシアの問題は民主主義の守り手の力を上げています。管理だけではなく、国民力を育てる点でこの問題を国民それぞれが考えることが重要です。マイナンバーの導入は政府としては楽なわけですが、税金の徴収という点で。民主主義を信じるのならば、政府が主導してはならないと考えます。

- ・（黒沢氏）「はい」紙の保険証で、今まったく問題ありません。
- ・（佐藤氏）「はい」人の命に直接かかわる情報の扱いであるのに、期間ありきの姿勢で非常に不安を覚える。実際に発生している問題も多く、最低でも現行の健康保険証を残していくべき。
- ・（阿出川氏）「はい」これまでの保険証でも何も困ることなく安心して使っていた。マイナンバーカードを使いたくない人は、現行保険証を使用し、マイナンバーカードを使いたい人は使う。選択できるようにすべき。
- ・（山崎氏）「はい」他人の医療情報が誤ってひもづけられたりスムーズな受診が妨げられることは、命に係わる問題。膨大なお金と手間をかけ「資格確認証」を発行する必要はなく、健康保険証を残せばよい。
- ・（滝沢氏）「はい」健康保険証を無くしても悪いことしかない。無くす理由もない。
- ・（野々村氏）「はい」トラブルがあっても対応できる。そもそもマイナンバーカードは任意のもの。健康保険証と紐づけすることが間違い。マイナンバーカードの申請ができない障害者や認知症高齢者もいる。国民皆保険制度を守るためにも継続が必要。
- ・（竹内氏）「はい」これだけ命に直結したトラブルが発生しているので、マイナンバーカードとの一本化は中止し、現行の保険証は残すべきと考えます。

⑦ 社会保障制度についてご自身の考えをお書きください

- ・（若林氏）日本の社会保障制度は世界でもトップレベルです。地方自治体により差はありますが今後さらに良くしていけたらと思います。
- ・（山本氏）…社会保障の本来あるべき形。日本国憲法 25 条が規定する「生存権」が脅かされていることに危機感を持たなければなりません。簡単に生活保護を受ければいいたとか、国や自治体、協議会がなんとかしてくれるなどと、甘い考えを抱いてはられません。もう、子どもが減る時代

に突入したのですから、かつてのような安泰などはどこにも存在しません。

それでも、昨日よりも今日、今日よりも明日が、ちょっとでもいい日になることを願って。でかけた先での誰か、職場に訪れる人、同僚、友人、ご近所さん、家族。すべての人と手を取り合いながら、希望を持って生きていかなければいけません…（※長文のため抜粋のみとさせていただきます。全文を確認されたい方は、お問合せください。）

- ・（黒沢氏）憲法で保障されている基本的人権を守るため、軍事費より社会保障費を確保すべき。
- ・（佐藤氏）社会保障は文字通り社会における生活の保障をするものである。今広がっている貧富の格差を是正するため、社会保障という形での富の再分配を推進していくべきである。
- ・（阿出川氏）軍拡ではなく、社会保障へ。格差是正し、誰もが安心して暮らせる日本でなければならない。何より平和。
- ・（山崎氏）政府の役割は所得の再分配だが、日本はその機能が失われている。憲法 25 条の保障する「健康で文化的な最低限度の生活」を実現するためには、社会保障をもっと手厚くすることが必要不可欠。
- ・（滝沢氏）高齢化社会となるなかで、社会保障費が増えるのは当然のこと。そこを削ろうとすれば命も健康も守れない。
- ・（野々村氏）地方自治体の最も大きな役割はセーフティーネット。福祉は決して上からの施しではなく、一人一人の人間らしい暮らしを保障する国民の権利である。まず税金はそのために使うべきである。
- ・（竹内氏）政府が医療費抑制政策を取り続けてきたところに新型コロナウイルスが発生し、医療費抑制政策は直ちに見直す必要がある事が明らかになりましたが、この状況ですら国は政策を変えようとせず、怒りが湧きます。正社員があたりまえの社会、格差が是正される納税システムをまず確立し、納税された税金が戦争準備ではなく、豊かな社会づくりのためにこそ使われるべきと考えます。